熊取町埋蔵文化財報告第15集

東円寺跡発掘調査概要・Ⅵ

－東円寺跡８９年－４区・９０年－１区の調査－

１９９１年　３月

熊取町教育委員会

はしがき

東円寺跡は熊取町役場周辺に位置する遺跡で、平安末期に建立されたと伝わる寺院跡とそれを支えた経済基盤である生産集落の遺跡です。

近年開発の増加に伴って、遺跡内での発掘が行われる機会が多くなってきております。

今回も、記録保存を行う為に、開発申請者の方のご理解を得て、発掘調査を実施いたしました。

本書は平成2年に実施されたビルの建築に伴う調査についてまとめて発刊したものでありますが、たとえわずかなりでも文化財保護に寄与できるものと確信しております。

文末となりましたが、現地での調査並びに本書の作成にご尽力いただいた方々、並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成3年3月

熊取町教育委員会

教育長　山中長正

例　　言

1. 本書は、熊取町教育委員会が受託事業として実施した有限会社美輝のビル建築に伴う発掘調査の概要報告書である。

2. 調査及び整理に要した費用は、すべて調査原因者である有限会社美輝の負担によるものである。

3. 調査は熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として、東円寺跡89年－4区の調査については、平成元年11月24日に着手し、同年12月10日に終了した。

4. 調査の実施と整理作業にあたっては、池辺吉也、義本哲司、安福佳代、辻本栄子、杉本由貴子、宅野京子の諸氏の参加を得た。また、有限会社美輝・関西航測株式会社・竹口文化財土木工業所並びに関係各位より多大な協力を得た明記して感謝の意を表したい。

5. 本書中の標高は、東京湾平均海水面を基準とし、方位については、地図以外は磁北を示すものとした。

6. 本書の執筆・編集は井田がおこなった。

目　　次

第 1 章　調査の沿革 …… 1
　第 1 節　調査に至る経過 …… 1
　第 2 節　遺跡の位置と環境 …… 1
第 2 章　東円寺跡89年－ 4 区・90年－ 1 区の概要 …… 2
　第 1 節　調査の概要 …… 2
　第 2 節　検出遺構 …… 4
　　①　ＳＢ－ 1
　　②　ＳＤ－ 1
　　③　そ の 他
　第 3 節　出土遺物 …… 4

挿　図　目　次

第 1 図　熊取町位置図 …… 1
第 2 図　調査区位置図 …… 2
第 3 図　調査区平面図 …… 3

写　真　図　版　目　次

図版第一　調査区空中写真

東円寺跡発掘調査概要・VI

第1章　調査の沿革

第1節　調査に至る経過

大阪府泉南郡熊取町大字五門1065－4番地において、有限会社美輝がビルの建築を計画し、同社取締役楠本充美氏より平成元年11月13日付で文化庁長官宛の発掘届出書と熊取町教育委員会教育長宛の埋蔵文化財包蔵地の存在確認調査に伴う技師派遣依頼が提出された。

第1図　熊取町の位置

これを受けて熊取町教育委員会では、申請者と遺跡の取り扱いについて協議を実施し、遺跡の重要性に鑑み調査することで合意した。

調査は、建物の基礎工事によって遺構が破壊されることなどから全面の発掘を実施することとし、調査区名を東円寺跡89年－4区と呼称することとした。

さらに、熊取町大字野田2235－1番地においても、駐車場の造成を計画し、平成2年3月6日付で文化庁長官宛の発掘届出書と熊取町教育委員会教育長宛の埋蔵文化財包蔵地の存在確認調査に伴う技師派遣依頼が提出された。

これを受けて熊取町教育委員会では、申請者と遺跡の取り扱いについて協議を実施し、遺跡の存否を確認するために試掘調査を実施することで合意した。東円寺跡90年－1区の試掘調査は、調査申請地内に幅1mのトレンチを十字に設定し、人力により実施した。以上が調査に至る経過である。

第2節　遺跡の位置と環境

今回の調査地は熊取町役場の町道野田泉佐野線で画された南側に位置しており、調査地の小字名は豊寺（とよじ）で東円寺（跡）に関係すると考えられる

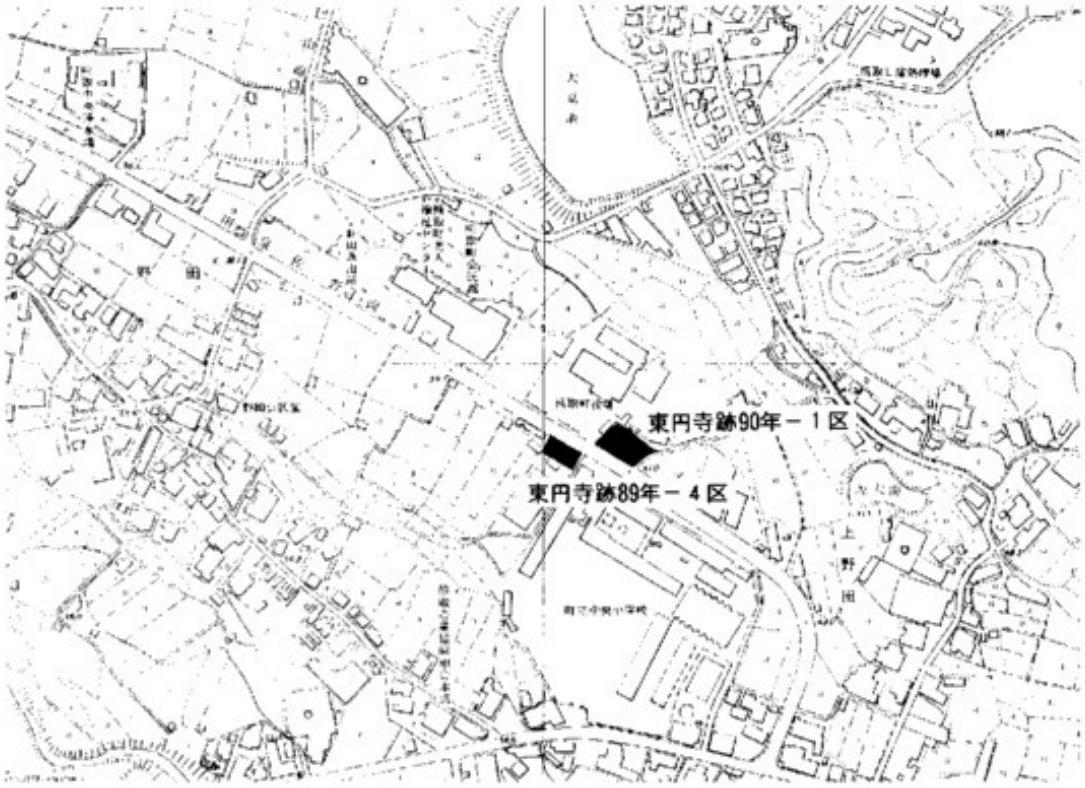
小字を有する土地である。地形的には丘陵の縁辺と中位段丘の接点であり、ＴＰ＋３６ｍ前後に位置する。

東円寺跡の南側を東から西に大井出川（住吉川）が流れているが、流域ではここ数年の間に開発の事前調査により遺跡が新規発見されている。現在南北３５０ｍ、東西７５０ｍに及ぶ範囲を東円寺跡と呼称しているが、調査が更に実施されて、資料が蓄積されるに従って、寺院のあった場所を東円寺跡とし、寺院と直接関係する範囲を東円寺遺跡としてそのほかの範囲は別途の遺跡とすることが望ましいと思われるがそれは今後の課題である。

第２章　　東円寺跡89年－４区・90年－１区の概要

第１節　調査の概要

調査を実施した地点は小字名では豊寺（とよじ）であることから、東円寺跡に関係する小字名である。現状は宅地で当該地の南側３０ｍでかなり急に標高を下げる地形である。



第２図　調査区位置図

第３図　東円寺跡89年－４区平面図

検出した主な遺構は溝が一条、建物跡を１基検出したほか柱穴（杭穴？）も多数検出している。出土遺物の量は非常に僅少であったが、須恵器、土師器、瓦器が出土している。

当該地においては、狭小な範囲の調査ではあるが、比較的効率よく遺構を検出できた。しかし、東円寺（跡）に関係すると見られる遺構は、ここでも検出されていない。当該地では遺構の掘り方が総じて浅く、これは東円寺跡でいままで調査したいくつかの調査区と同じ状況で、削平をうけていることを想定させる。後に調査を実施した東円寺跡９０年　１区でも同じ状況であった。

第２節　検出遺構

①　ＳＢ－１

ＳＢ－１は、今回の調査で唯一検出された建物跡で規模は梁間２間で桁行２間を測る。柱間は２．３ｍ～２．７ｍを測る。建物の中心軸は磁北より西へ４０°振っている。

②　ＳＤ－１

ＳＤ－１は、幅６５㎝前後で深さ１５㎝の近世の溝である。遺構覆土は、褐灰色粘質土で出土遺物としては瓦器、東播系こねばちなどが破片で出土している。

③　その他

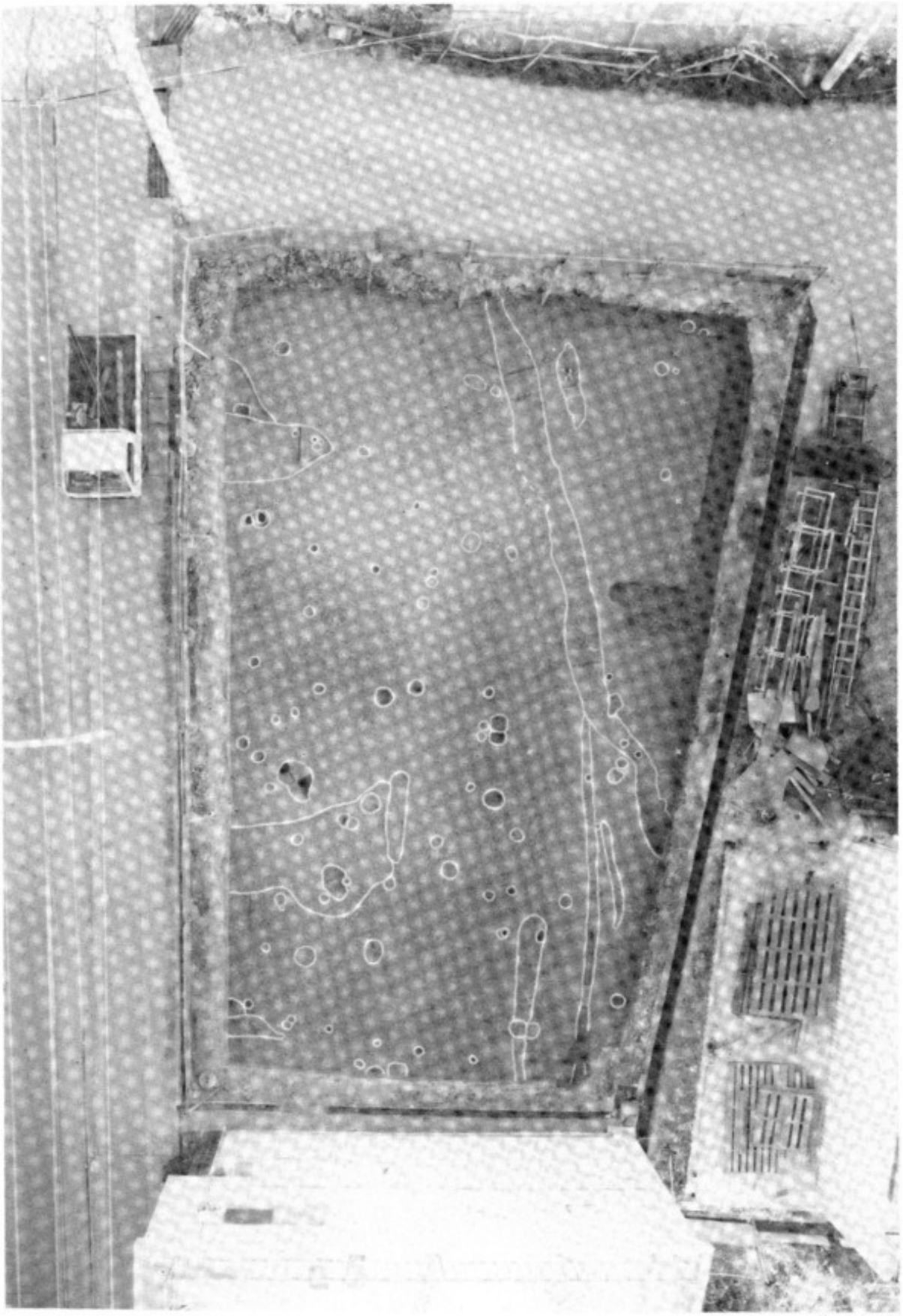
その他に柱穴（杭穴）、土壙などが多数検出されたが、これらの遺構から遺物は出土しなかった。また、遺構の性格は判然としない。

第３節　出土遺物

出土遺物は、いずれも細片で図示し得るものはない。破片数にして約２０点ほどの遺物片が出土した。出土しているのは須恵器、土師器、瓦器、東播系こねばち、瓦質の鍋、近世磁器、瓦片などである。

図　　版

図版第一　調査区空中写真



北は左下